（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	みらいキッズ（北区教室）			
○保護者評価実施期間	2026年9月15日	～	2026年10月15日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	48	（回答者数）	36
○従業者評価実施期間	2026年9月15日	～	2026年10月15日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	10	（回答者数）	10
○事業者向け自己評価表作成日	2026年10月31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、将来を見据えた力を育んでいく視点を大事に支援を展開している。	・障がい特性や発達年齢に配慮し、将来を見据えた力を育んでいけるよう個別活動（学習・トレーニング）を提供している。 ・運動遊び、ゲーム、創作活動、おでかけ、買い物などを通して、ルールやマナーやコミュニケーションスキルを習得していけるよう集団活動を提供している。	障がい特性や発達年齢に配慮した活動を幅広く提供していけるよう指導員で意見を出し合い活動を構築していく。安心・安全にも十分に配慮し計画的におこなっていく。
2	経験豊富な児童発達支援管理責任者や児童指導員が多く、こどものことを十分理解し、専門的な支援を提供している。	・本人のニーズ、保護者のニーズなどを的確にアセスメントし、支援を提供している。 ・個々の職員がその専門性を発揮し、利用者のニーズに柔軟に対応している。 ・日ごろからの連絡を密に、安心して家庭や学校での困りごとを相談できる関係を保護者と築いている。	引き続き、利用者のニーズに応えていけるよう、安心感・専門性・柔軟性を重視した対応をおこなっていく。新しい指導員にそれを伝えていく側面にも力をいれていく。
3	送迎が充実している。	・子ども達の安全、保護者の安心のためにも、送迎を全面的にバックアップしている。 ・子ども理解・安全意識を増進させるため定期的にドライバー会議をおこない、ドライバーの専門性の向上を目指している。	定期的な送迎ルートの確認、利用児の乗車状況の共有、ドライバーの質の向上など、子どもたちの安全、保護者の安心により留意し送迎を継続していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員の資質の向上を図るために、外部の研修を受講する機会の保障	内部の研修は定期的におこなっているが、研修がマンネリ化気味である。職員の質の向上を思うと、外部研修への参加mも促進したいが、その機会が保障しきれていない。	外部研修の情報提供は行っているが、参加自体は職員任せになっている。そのうえ、人員不足なのもあり、勤務時間内の参加を保障しきれない。研修計画と当時に研修に参加しやすい環境の整備にも取り組んでいきたい。
2	家族に対して家族支援プログラム（ペアレント･トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供	個別相談に対するアドバイスや助言はできているが、保護者を対象とした集団での研修の場や保護者同士の情報交換の場が設けられていない。	研修会の開催となると、事業所側も保護者側も気負ってしまう面が大きい。まずは、保護者同士が気軽に情報交換をできるような機会を定期的に保障するなど、できるところから取り組んでいきたい。
3	専門職との連携	作業療法士・言語聴覚士など専門職との連携が望まれるが、連携方法を含めて現段階では検討できていない。	専門職との連携の必要は感じているが、その連携方法を含め充分な検討ができていない。導入を考えるうえでも、現有の直接支援者の専門性をあげていく試みも同時に取り組んでいきたい。